



皆さんは環境問題を考えたことはありますか？昨年、市は気候非常事態宣言を表明し、取り組みを進めています。今年の新春対談はアルピニストの野口健氏に、自身の体験ややってきた活動から「みんなで環境問題を考える」ためのヒントを伺いました。

どこか遠い話に感じる地球温暖化、でも世界は

藤井市長（以下藤井） 温暖化の問題というと、このまま海水面が上がっていくと、海拔の低いツバルという国が無くなるとか、あるいは氷山が溶けてホッキョクグマの住む場所が無くなるとか言われています。でも、それはどこか遠い国の話のように感じてしまいますよね。

野口健（以下野口） はい。温暖化は日本でも20年くらい前から言われるようになったじゃないですか、京都議定書もありました。ただ、どうも遠い話というか。

でもヒマラヤでは明確なんです。温度が上がると雪がバトバトになる。ヒマラヤは乾季と雨季があって、僕は寒い乾季に行くんですけど、乾季なのに雨季のように雨が降ったり、雪崩が増えたり、深刻な被害があるんです。ヒマラヤに行くと、温暖化というものは、非常に自分の身に危険を感じる問題ですが、日本に帰ってくるとピンとこなかったんです。

僕のシェルパ*で毎年夏になると、日本の山小屋で働いている人がいます。彼は「日本人は自分たちには関係ないと言ってくれど、でもエベレストや地球を自分の体と例えると、もし人間の頭が熱を持つと、体中がだるくなるよね。地球上で最も上にあるエベレストが熱を持つことは、地球全体が人間の体と同じように、いずれじわじわと地球全体にも影響を及ぼすんだよ」と言っていたんです。近年その話をよく思い出します。

気候非常事態宣言 まずは「自分ごと化」を

藤井 令和2年8月3日に、取手市は全国で27番目の自治体として、気候非常事態宣言を表明しました。少しでも市民の皆さまにも環境問題を自分のこととして捉えてもらい、できることはしっかりやっていこうと。もちろん、市の



行動計画もきっちりつくっていきますが、やはり日本の緊急の課題ですよ。

野口 そうなんですよね。でも日本は他の国に比べると、かなり温暖化や省エネの対策をやってきたので、さらに進めるというのはなかなか難しいですね。でもやっていかないといけない。先進国は既にいろいろ取り組んでいますし、あとは市民レベルですよ。温暖化というテーマが大き過ぎて、個人に置き換えると「何をすれば良いんだろうか」とみんな思ってしまうと思うんです。

藤井 やはりどこか遠い話題だと感じてしまうのでしょうか。しかし、この問題を解決する第一歩は、「自分ごと化」して行動することのように思います。

野口 そうですね。話は違うかもしれませんが、富士山も、だいがごみが無くなってきています。20年前はごみだらけで、ごみを拾っても拾っても一週間後に行けばまた一からやり直しで。「これ本当にいつかきれいになる日がくるのかな」というのが、全く見えなかったんです。コツコツやって、最初は年間100人前後しか集まらなかった清掃



気候非常事態宣言書を持つ市環境審議会の水鉦会長(写真左)と市長(写真右)

*シェルパ…ヒマラヤ登山のガイドや荷物運びなどをする人の意。元々はネパールの少数民族の一つで、高地順応した体を生かしてヒマラヤ登山の案内人を担ってきた。